

将来人口推計について

総合戦略と合わせて策定される人口ビジョンでは、本市の課題や特性を踏まえつつ、目指すべき将来の方向性の提示のために、近年の自然増減（出生・死亡）と社会増減（転入・転出）の動向をもとに将来人口の見通しを立てています。併せて、基本目標や方向性を定めるために、今後の自然増減や社会増減の傾向を仮定したパターン分析を行い、総合戦略の策定にあたっての人口の将来展望を示します。

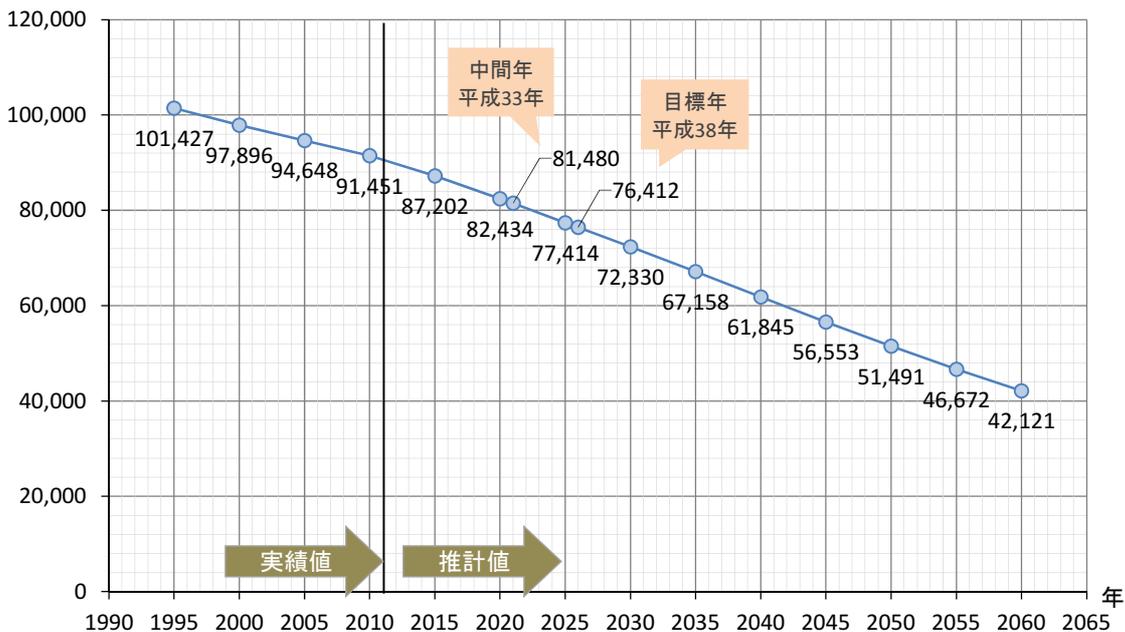
本市では現状のまま人口が推移すると仮定した場合、2060年（平成72年）には将来人口が約4.2万人に減少するとともに、少子高齢化が加速し、地域経済への影響や行政サービスの低下、さらには、公共施設等の統廃合など、まちの活力や都市機能の低下を引き起こすことが懸念されます。

そこで、人口減少時代の中で活力や都市機能を維持するために、本市の将来を担う若い世代に着目し、人口動向に関する要因（転入・転出・出生）を変化させた比較分析から、総合戦略の方向性を見出していきます。

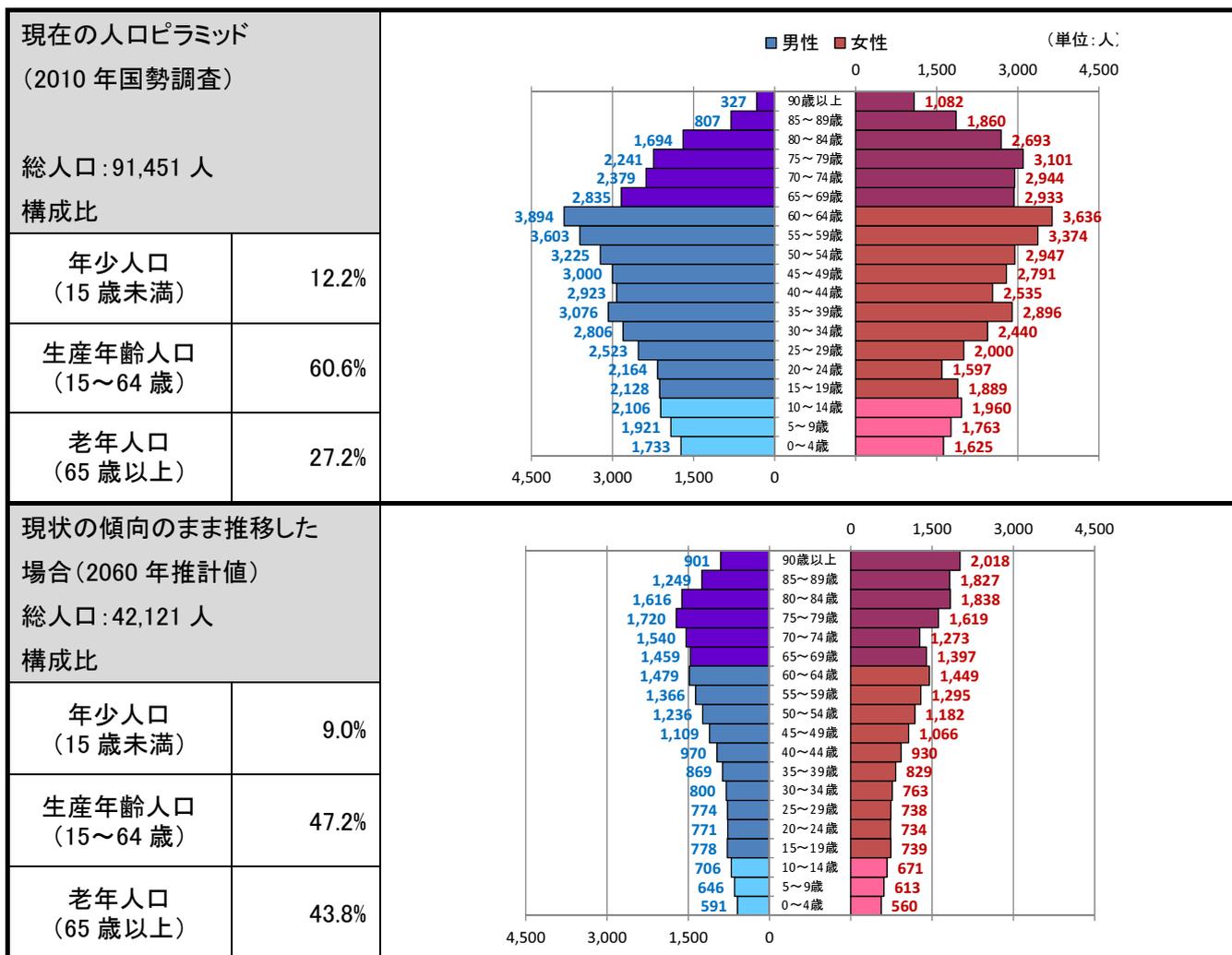
【パターンの内容とその着眼点】

パターンの内容	着 眼 点
1 現状の傾向と社会増減がないと仮定した場合（封鎖人口）の推計 →3ページ～	自然増減による人口動向
2 合計特殊出生率が1.80まで回復したと仮定した場合の推計 →5ページ～	出生の増加による動向
3 15～19歳及び20～24歳の転出が抑制、25～29歳及び30～34歳の転入が増加したと仮定した場合の推計 →7ページ～	高校や大学卒業後の他地域への若者の流出抑制による動向や子育て世代におけるUターンやIターン等の増加による動向
4 合計特殊出生率が1.80まで回復し、15～19歳及び20～24歳の転出抑制、25～29歳及び30～34歳の転入増加が同時に成立したと仮定した場合の推計 →11ページ～	2～3の相互作用による動向

現状の傾向のまま推移した場合の人口推移



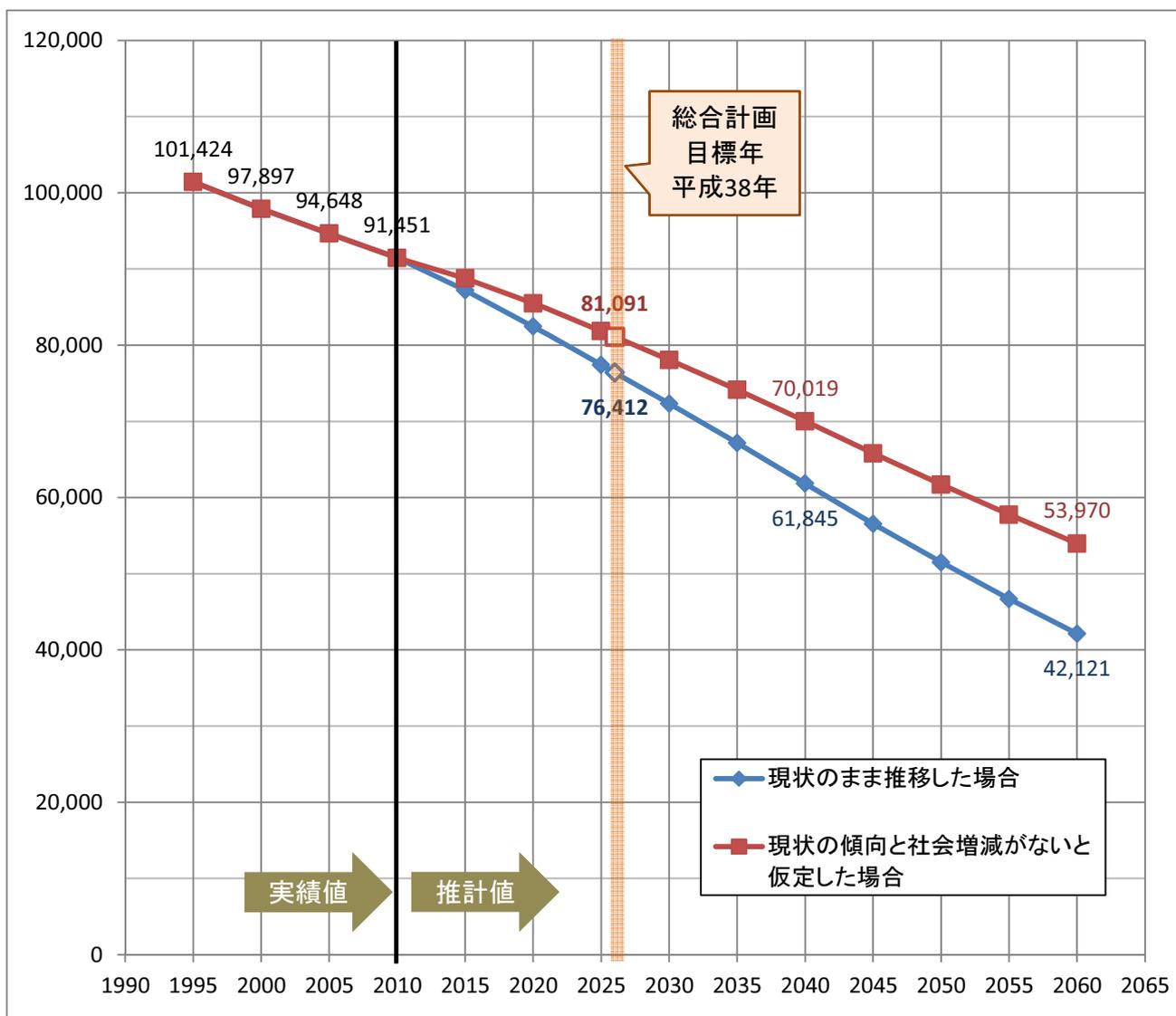
■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



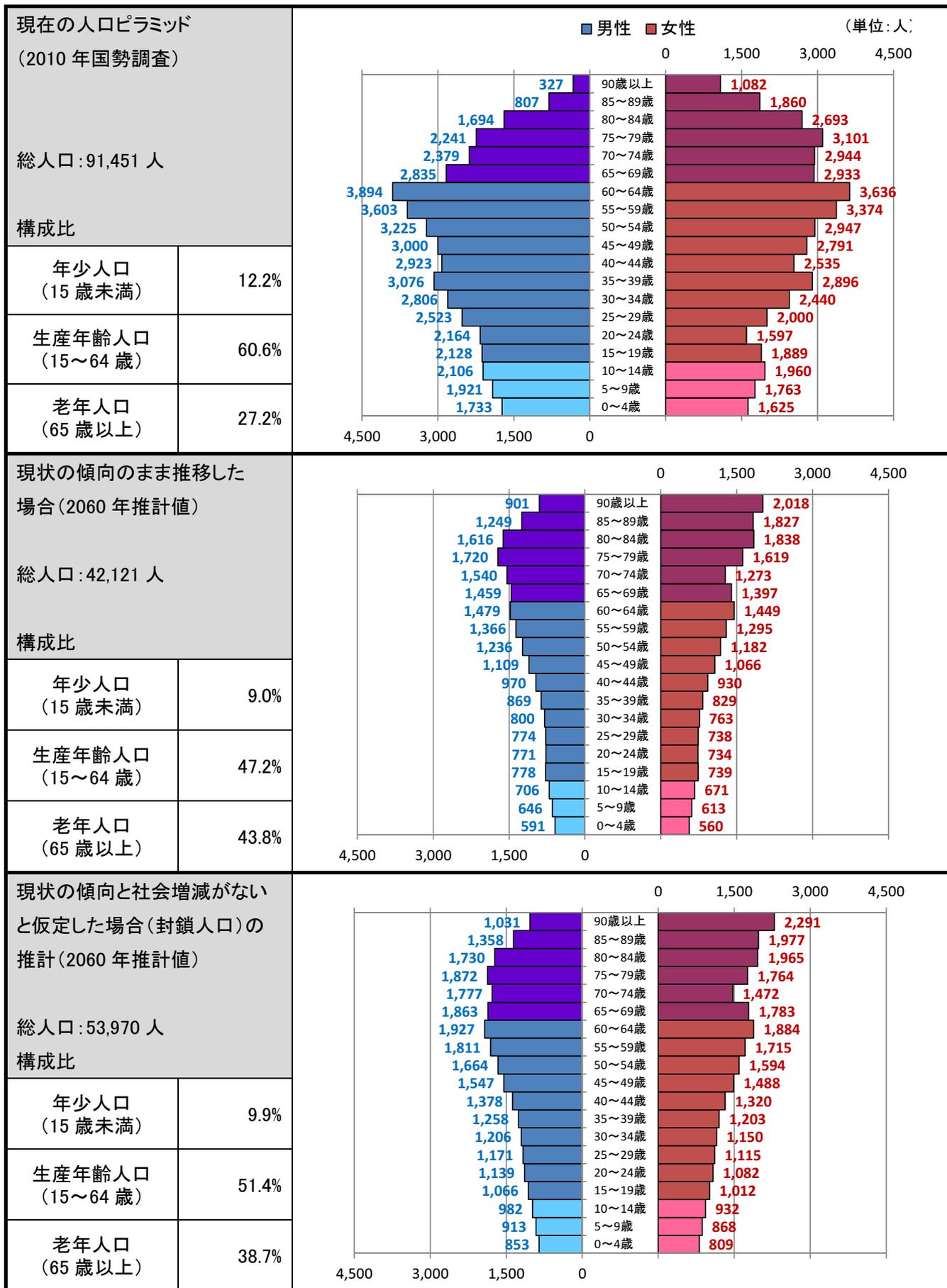
1 現状の傾向と社会増減がないと仮定した場合（封鎖人口）の推計

・転入がなく、転出もない状況を成立させることは現実的には難しいですが、以降のパターン分析における推計値の目安とするために推計します。

		パターン分析における考え方
自然増減	出生数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
	死亡数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
社会増減	転入数	0とする
	転出数	0とする



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド

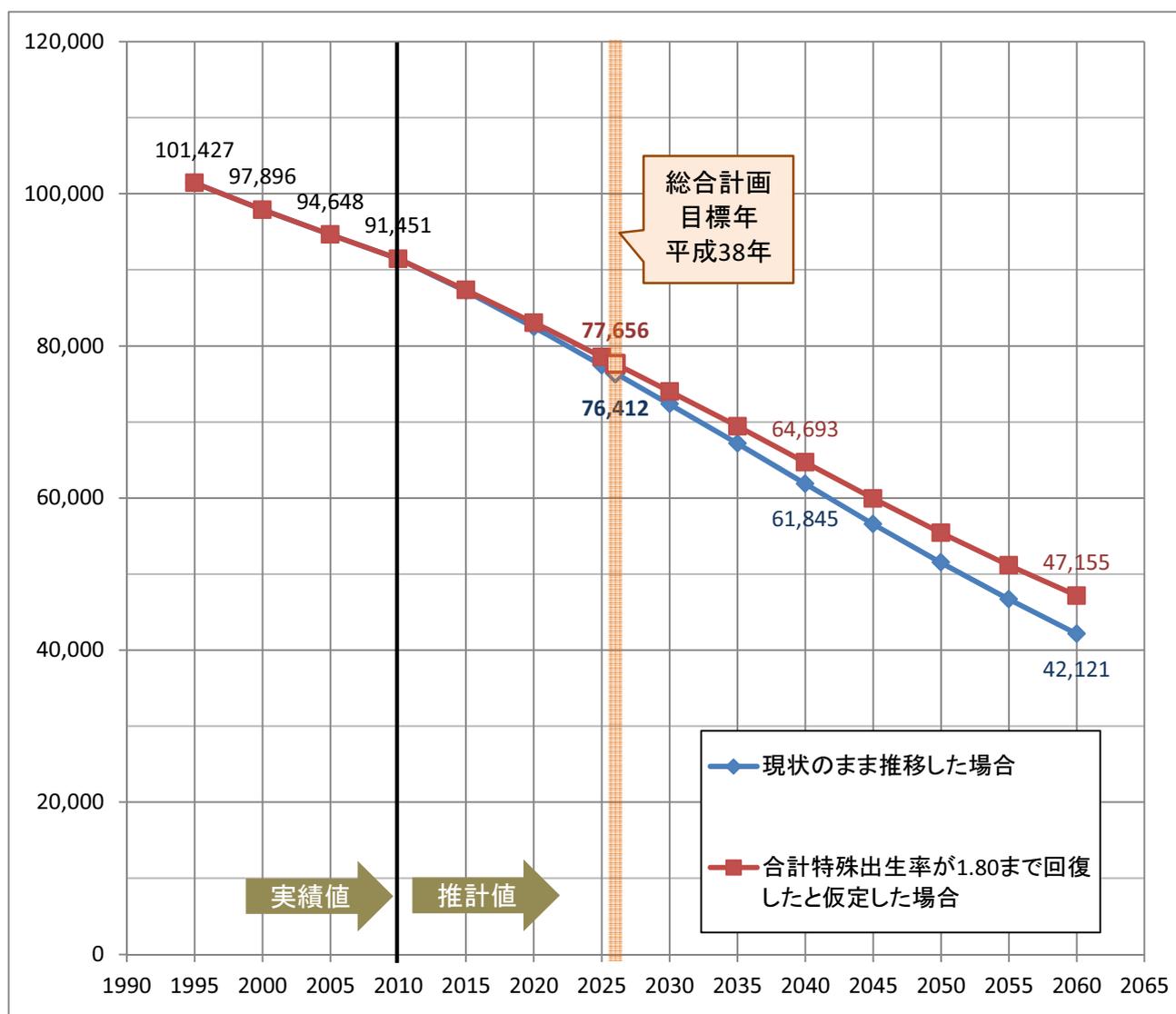


2 合計特殊出生率が 1.80 まで回復したと仮定した場合の推計

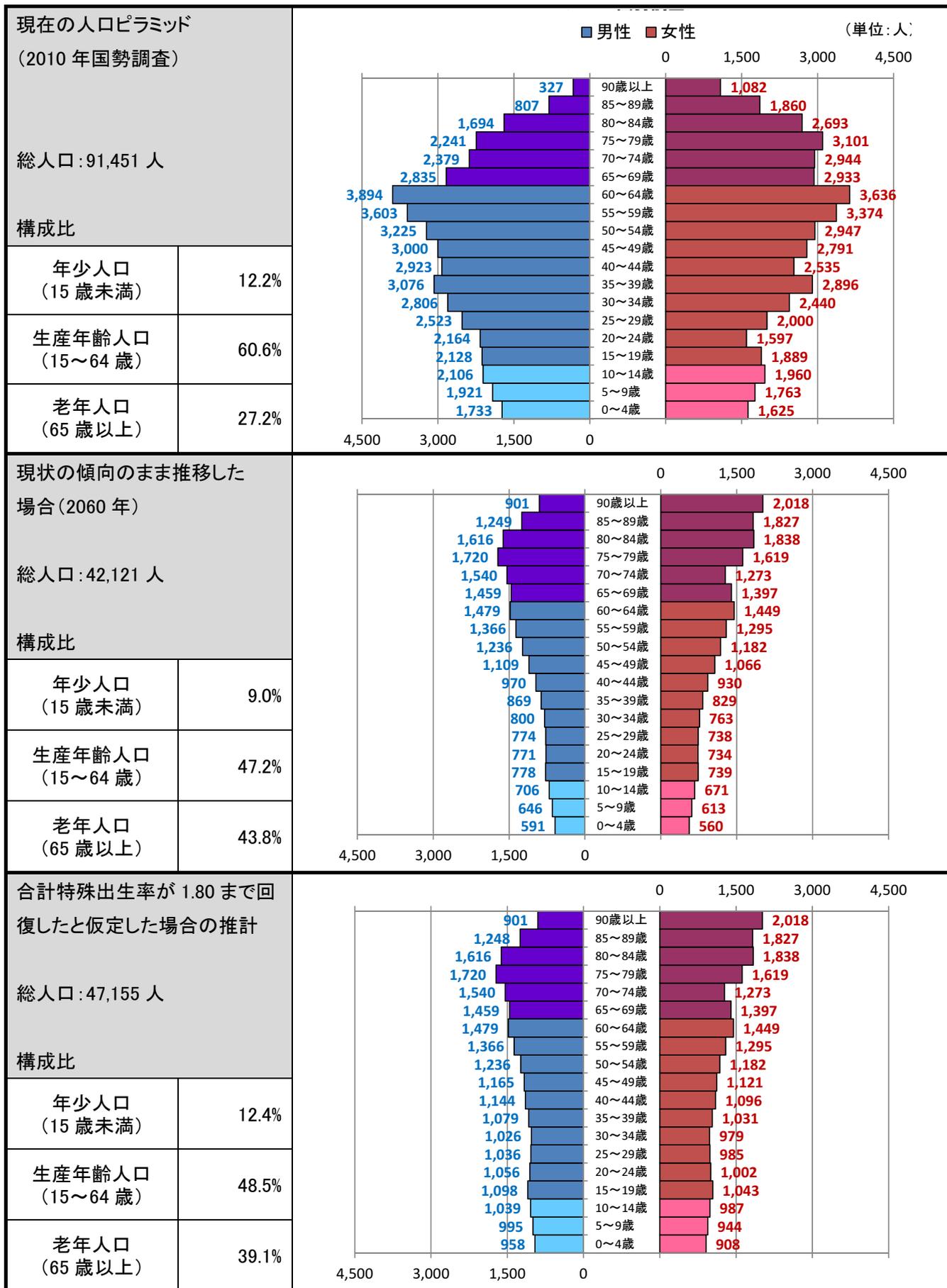
- ・ 1.80 まで回復すると仮定した場合で推計します。
- ・ 合計特殊出生率は、短期間で回復することが考えにくいと、20 年かけて 1.80 まで回復するものとしています。（近年の現況から平成 27 年も平成 25 年と同様に 1.49 と設定）

		パターン分析における考え方
自然増減	出生数	下表のパターンに合わせて推計
	死亡数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
社会増減	転入数	近年の動向を基に推計
	転出数	近年の動向を基に推計

年度	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 47 年
合計特殊出生率	1.46 (実績値)	1.49 (仮定値)	1.56	1.64	1.72	1.80(以降も 1.80 で推移と仮定)



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



3 15～19歳及び20～24歳の転出が抑制、25～29歳及び30～34歳の転入が増加したと 仮定した場合の推計

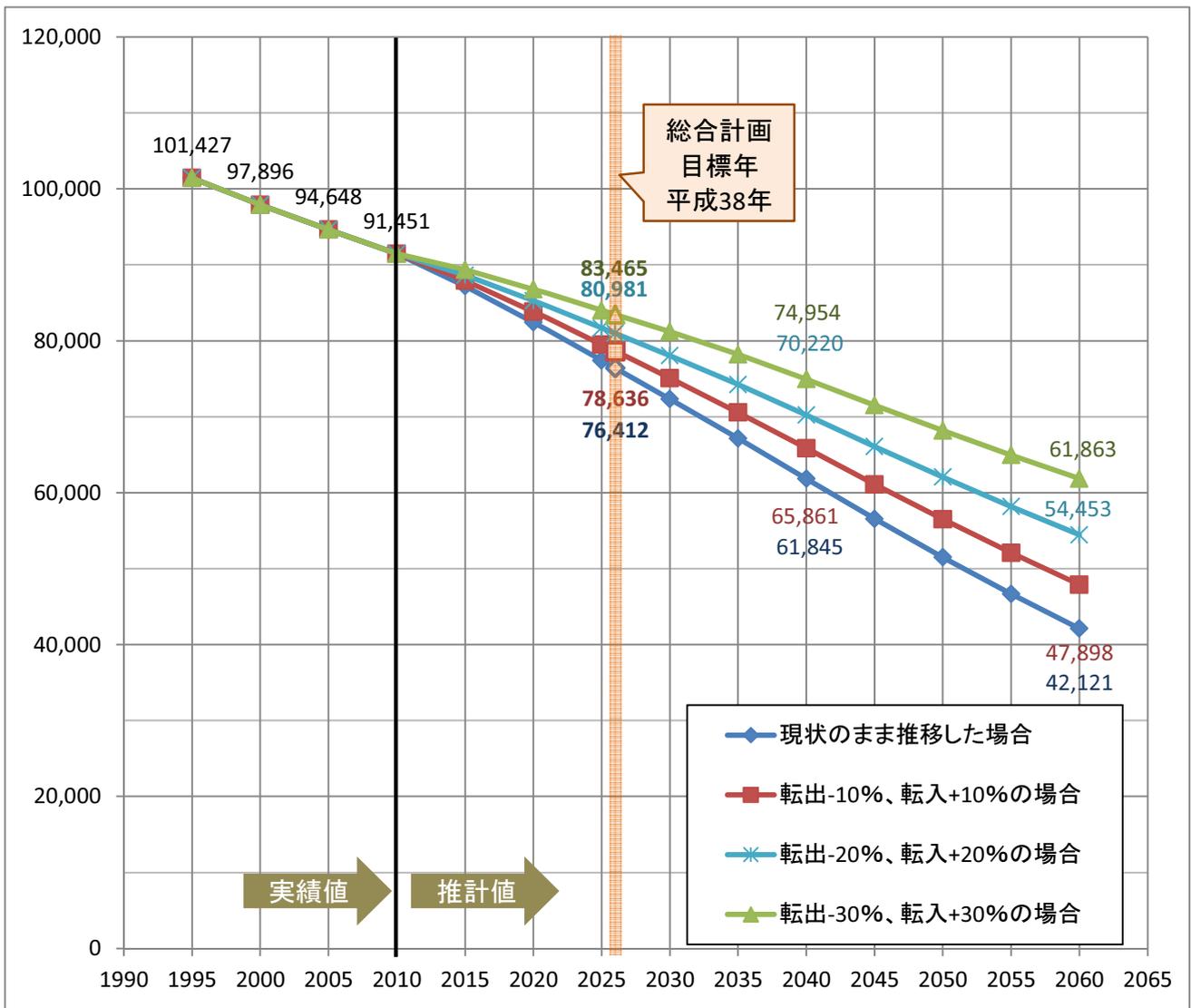
・ 柏崎市の近年の転出動向を見ると、15～19歳及び20～24歳の転出数は年間約660人^{*}であり、転出数が10%抑制されることで5年後にはこれらの世代の数に、約330人程度差が出てきます。

(※15～19歳及び20～24歳の転入数は、年間約470人)

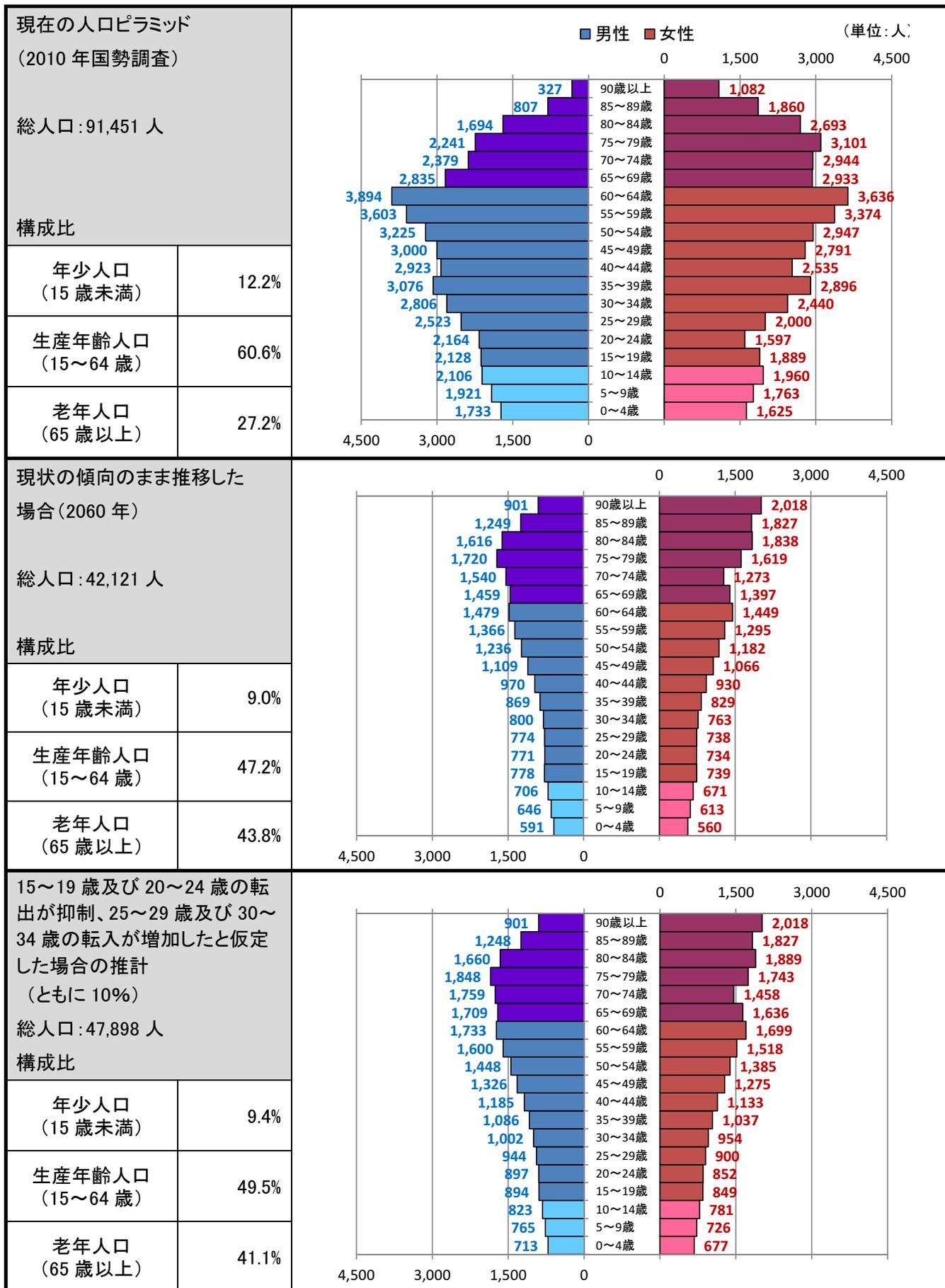
・ 柏崎市の近年の転入動向を見ると、25～29歳及び30～34歳の転入数は年間約650人^{*}であり、転入数が10%増加することで5年後にはこれらの世代に、約330人程度差が出てきます。

(※25～29歳及び30～34歳の転出数は、年間約740人)

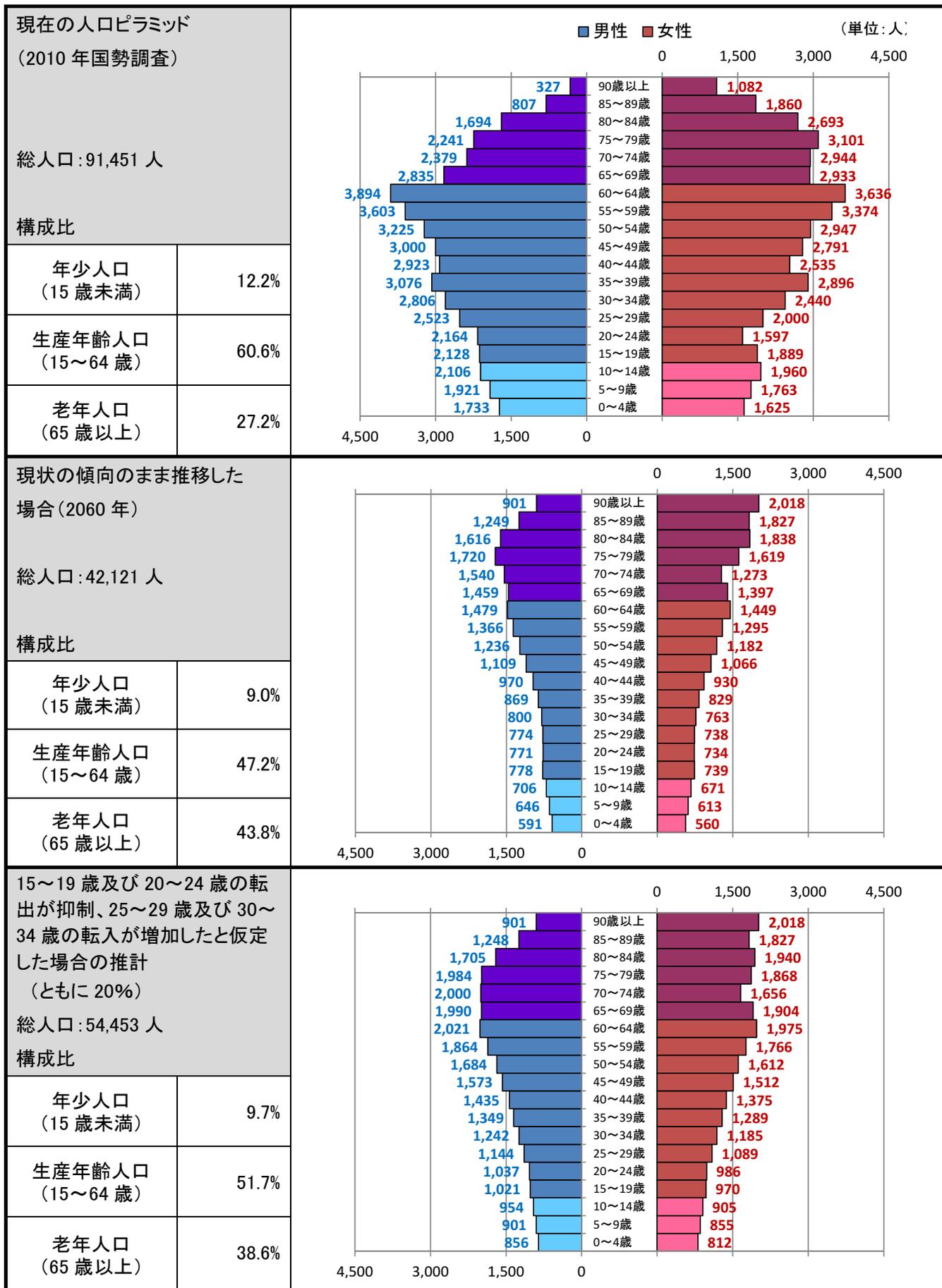
		パターン分析における考え方
自然増減	出生数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
	死亡数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
社会増減	転入数	25～29歳及び30～34歳の転入が増加するものとして推計 (その他の年代は、近年の動向を基に推計)
	転出数	15～19歳及び20～24歳の転出が抑制されるものとして推計 (その他の年代は、近年の動向を基に推計)



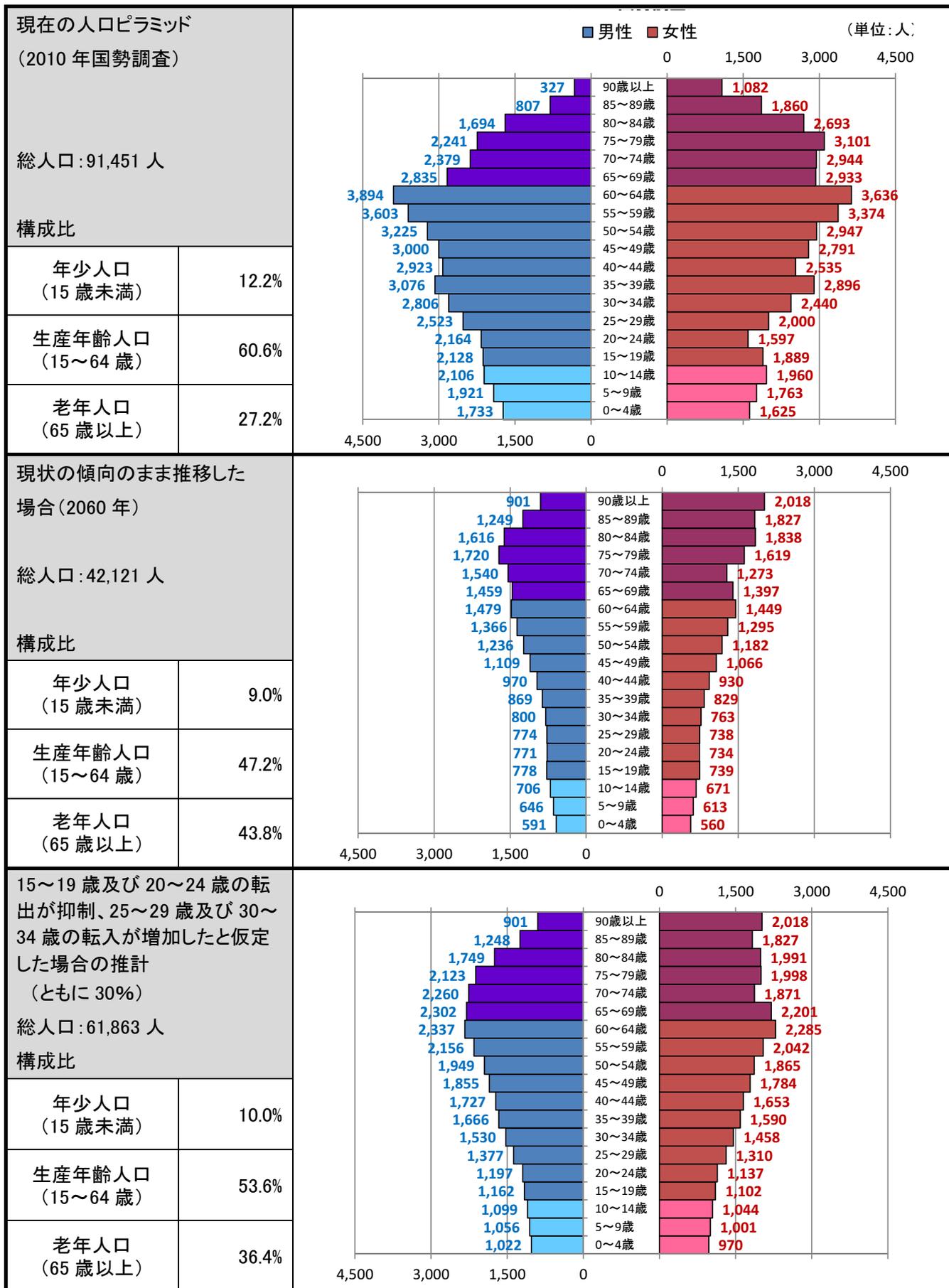
■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



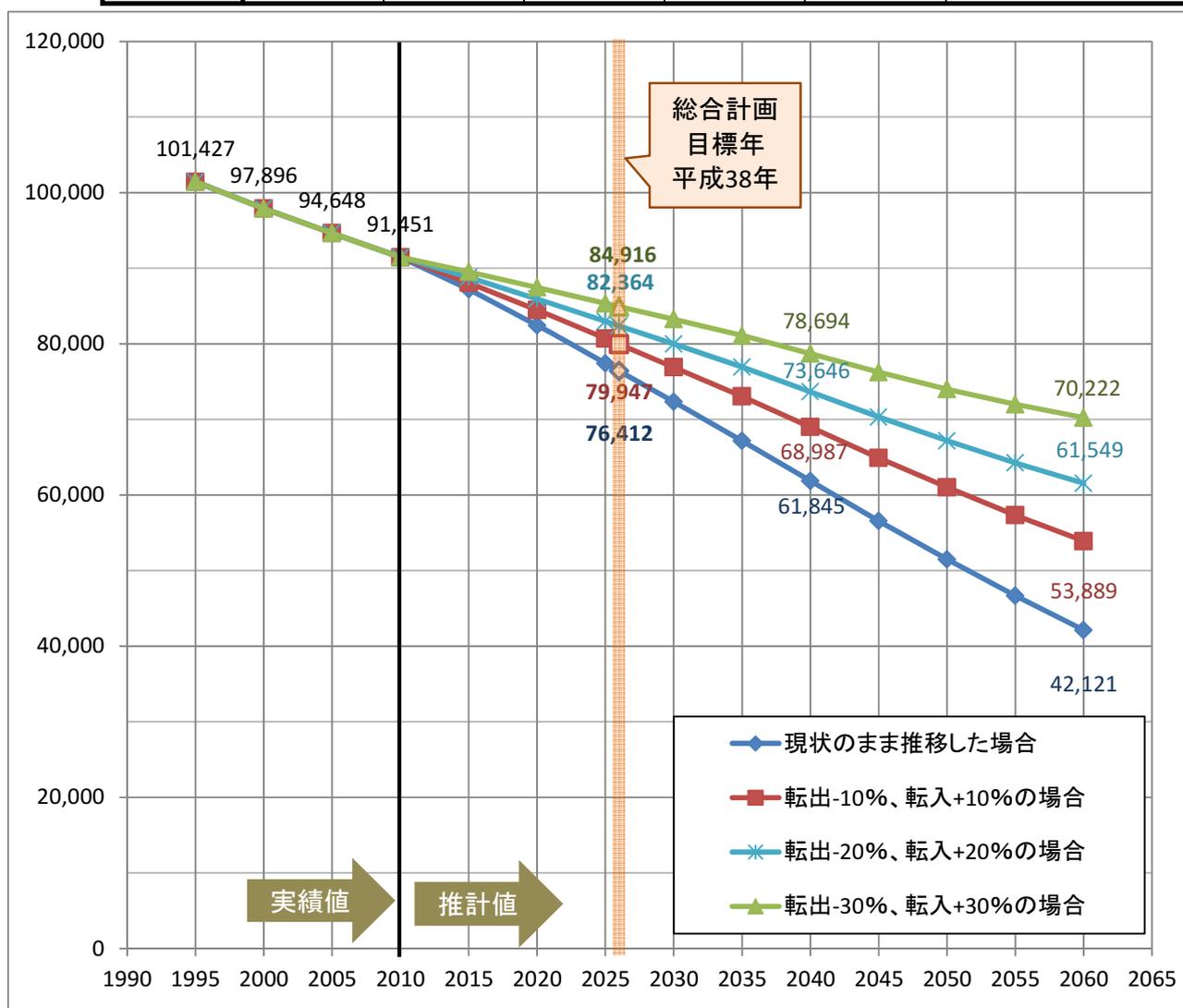
4 合計特殊出生率が1.80まで回復し、15～19歳及び20～24歳の転出が抑制、25～29歳及び30～34歳の転入の増加が同時に成立したと仮定した場合の推計

・合計特殊出生率の回復、若者の転出抑制・転入増加が同時に成立するものと仮定しているため、5年経過するごとに人口動向の差が顕著に表れていきます。

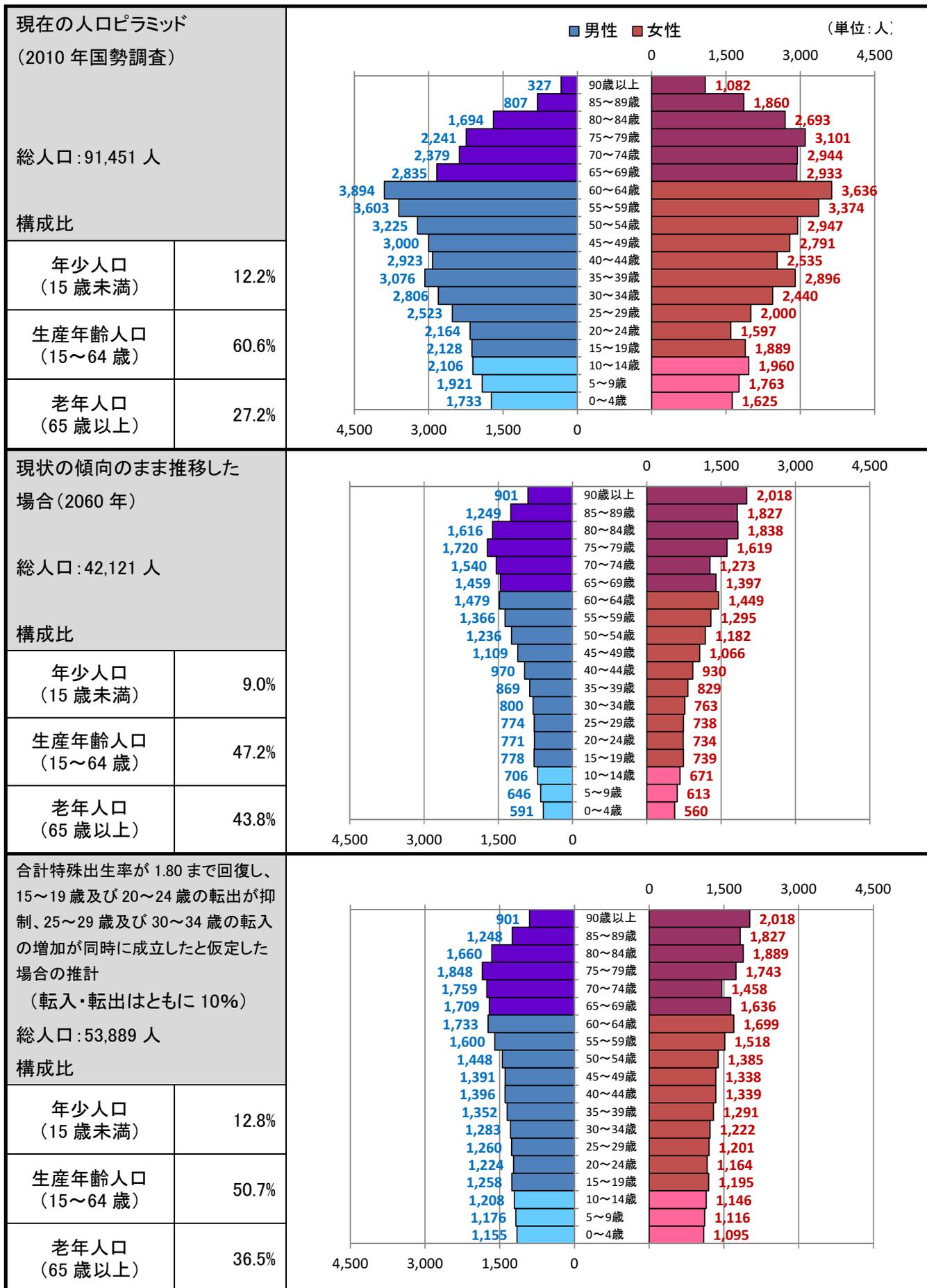
・合計特殊出生率は、短期間で回復することが考えにくいいため、20年かけて1.80まで回復するものとしています。（近年の現況から平成27年も平成25年と同様に1.49と設定）

		パターン分析における考え方
自然増減	出生数	下表のパターンに合わせて推計
	死亡数	国立社会保障・人口問題研究所の将来値を基に推計
社会増減	転入数	25～29歳及び30～34歳の転入が増加するものとして推計 (その他の年代は、近年の動向を基に推計)
	転出数	15～19歳及び20～24歳の転出が抑制されるものとして推計 (その他の年代は、近年の動向を基に推計)

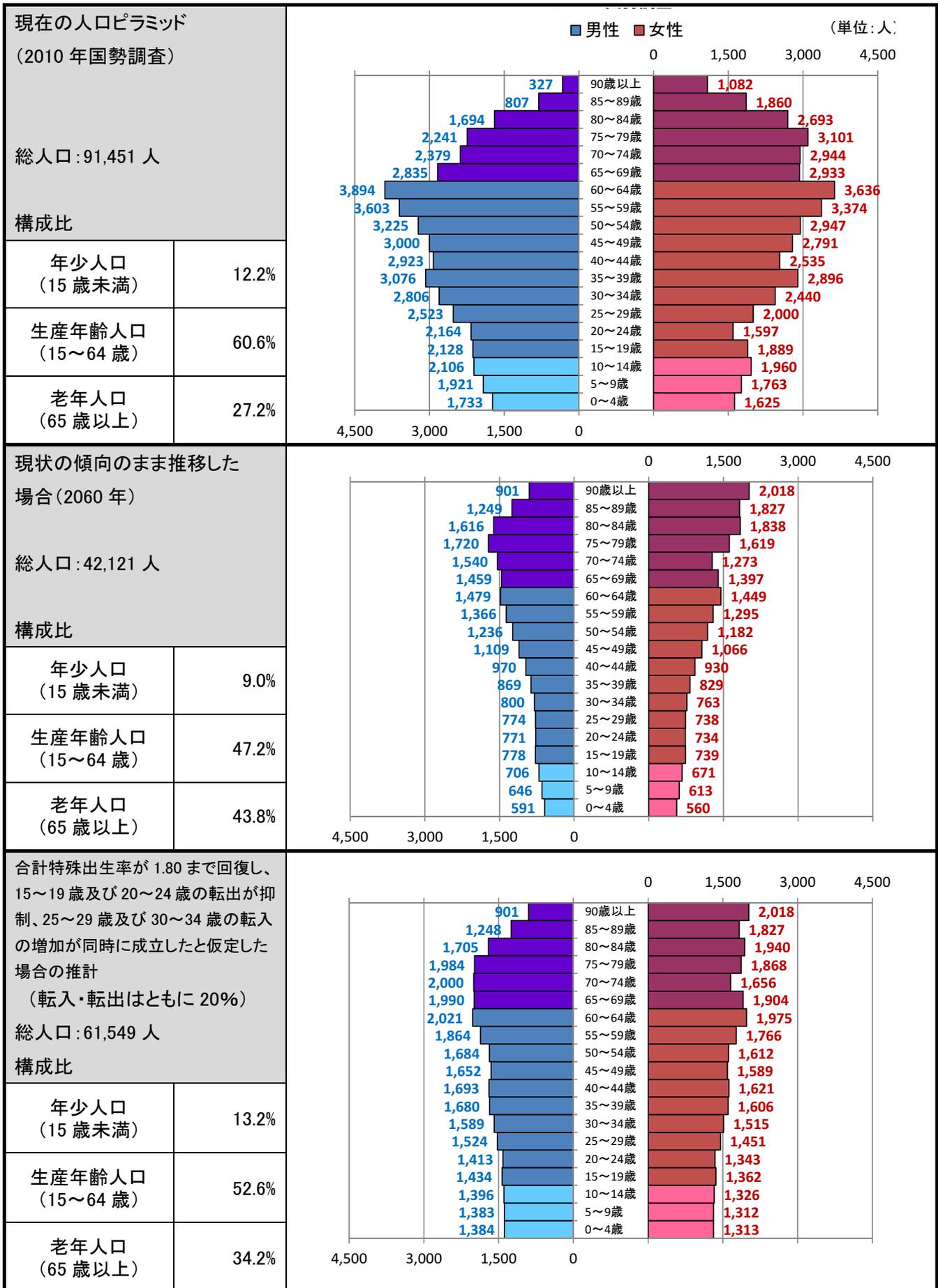
年度	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
合計特殊出生率	1.46 (実績値)	1.49 (仮定値)	1.56	1.64	1.72	1.80(以降も1.80で推移と仮定)



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド



■ 柏崎市全体の人口ピラミッド

